

天皇とこころ通わす 歌の会

平井 仁子
（しがく総合研究所）

《温もりの 残る手袋 渡されて
君は友より 夫となりぬ》

「友達から夫になった」キツカケ。つまり、恋に落ちた場面の歌とも言えます。作者は手のひらだけでなく、こころもポツと温かくなつたのではないのでしょうか。若者言葉で表現しますと「エモい」！心が揺さぶられて、何とも言えない素敵な気持ちになります。国学者の本居宣長だと「エモい」は「もののはれ」。昔から日本人は五七五七七のリズムでこうしたこころの動きを言葉にしてみました。

た。

さて、冒頭の歌は、今年の「歌会始」で選ばれた、岡山県の藤井正子さんの歌です。拙稿では、「歌会始は単なる歌のコンテストではない」ということをお伝えします。

遅くとも鎌倉時代中期までには始まって、今日まで連綿と続けられている宮中の歌会始「詠進」と言いまして、どなたでも応募することが可能です。そしてトップ10に選ばれると、なんと宮中に招かれ、天皇皇后両陛下の前でお披露目されます。その際に、陛下にお声をかけていただけることも。

天皇陛下は国民のこころを

知ろうとしてみてください

さて、「歌会始は単なる歌のコンテストではない」理由の1つ目は、右記の宮中に招かれること。2つ目は、天皇陛下が1万首を超える応募作すべてに、目を通してくださっているらしいということです。上皇陛下に做つて、おそらく今上陛下もなさっています。国民はどんな場面でのようこころを動かしているのか、一首一首を味わって、国民のこころを知ろうとしてみてくださいるのでしよう。

理由の3つ目は、お題は天皇陛下が選定なさっているということ。本年は「友」、来年は「和」というお題です。「和」の文字が詠み込まれていれば良く、「平和」、「調和」、「和服」のような熟語にしても、また、「和（やは）らぐ」、「和（なご）む」のように訓

読しても良いということになっています。

個人的な意見ですが、実は本年の「友」というお題を聞いて、当初は「テーマの方向性が限られてしまい、似たような和歌が集まってしまうのではないかと勝手に心配していました。

しかし、今回の御製（天皇陛下の御歌）を拝読すると、天皇陛下のお考えを拝察することができたのです。

御製（天皇陛下の御歌）から伝わる 国民への想い

《コロナ禍に 友と楽器を 奏でうる
喜び語る 生徒らの笑み》

コロナ禍で孤独を感じる国民が増えてしまったことを心配して下さり、「友」というものの素晴らしさを見つめ直す機会を作ろうとして、お題として選定なさったのではないで

しようか。天皇陛下の慈しみの心を感じます。また、平素な現代語で詠んでいらっしやるので、古語や古典文法といった隔たりなく、国民に想いが伝わります。陛下が常に国民とともにありたいと願っておられる大御心が偲ばれます。

サラ川・お〜いお茶との比較と 宮内庁SNS

ところで、歌会始の応募作は「1万首を超える」と述べましたが、平成の御代では平均で2万2千首だったのが、令和では1万5千首ほどになってしまいました。なんと3割以上の減少です。他の応募数とも比較してみましよう。

・第一生命保険「サラっと一句！わたしの川柳コンクール」(略称「サラ川」、旧称「サラリーマン川柳コンクール」)
昨年8万5千句超

島根県の榛松友香さんの歌です。「吾子」は我が子、「問はれし」は質問されたという意味です。小学一年生と言えば、「ともだち100人できるかな♪」という歌詞の歌がありますね。作者もお子さんの入学前後に「お友だちできるかな？」なんて話をしていたのだと思います。そうやって気にかけてくれたのを真似して、子どももお母さんに尋ねたのでしょうか。仕事の初日というのは、多くの方が上手く人間関係を築けるかどうか不安があるものです。お子さんにこんな風に声をかけてもらったなら、「我が子も新しい環境で頑張っているのだから、自分も頑張ろう！」という気持ち湧いてきそうですね。

さて、本当に良い歌ですが、これを見かけた際に、私は驚愕しました。鍵括弧と、はてなマークがあるからです。和歌を詠む難しさを、こんなにも取り除いてくださったのかと目を丸くしました。これまでも、古語ではな

・伊藤園「お〜いお茶新俳句大賞」
直近194万句超

この応募数の差の要因は、WEBから応募できることや、五七五だけで良いことに加え、何よりも認知度の差が大きいことだと思います。話題になっております宮内庁のSNSは様々な懸念点もございしますが、開設された折にはぜひ、歌会始の認知度拡大に活用いただきたいです。

難しく考えずに応募してみよう

最後に歌会始が易しくなったことをお伝えさせていただきます。まずは本年の詠進歌から選ばれた歌をもう一首、一緒に味わいましょう。

《母さんも 友だちできた?》と 小一の
吾子あしこに問はれし 仕事の初日》

現代語の歌も選ばれていますし、御製も現代語なので、もはや無理に古語・古典文法を使って詠まなくても良いのでしょうか。それに加えて会話文までOKとなりました。和歌を詠むには自分の心が大きく動いた場面を想像すると良いのですが、誰かの言葉が場面の中心であることが多々あるので、本当に詠みやすくなりました。

以上、歌会始は天皇陛下に国民のこころの動きを知っていただく機会であることや、応募数が激減していること、そして現代語でも良いことをお伝えしました。拙稿を読んでくださった方は、これも何かの縁だと思って、応募してみませんか? 応募の詳細は「歌会始 詠進」で検索すれば、宮内庁のHPにて確認できます。締切は9月末日です。

《和歌なんてわ・からん》なんて言わないで
こころ動いた場面を詠もう》

